

入鹿小だより

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 29 年 12 月 22 日
第 19 号

もういくつ寝るとお正月？

今日は2学期の終業式。いよいよ明日から冬休みです。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、今年も大変お世話になりました。本当にありがとうございました。夏休みの前のときもそうでしたが、冬休み前にも私から子どもたちに宿題を出しました。それは「1月9日の始業式に全員元気な姿を見せること」です。

年末年始は何かと慌ただしくなり、交通事故も増えてしまいます。自転車に乗れる子は乗り方に気をつけるとともに、歩行者も含めて、交通ルールを守り、特に道路の横断の際には十分気をつけてください。このことは学校でも児童に話をしましたが、ご家庭でもご注意をお願いします。

また、この時期は生活が不規則になりがちで、風邪をひいたりお腹をこわしたりと、体調面でも注意が必要です。お子様の健康につきまして各ご家庭でも十分ご留意してあげてください。

夏休み明けには、体調を崩して欠席してしまった児童がいました。今度こそ元気に全員が揃うことを願っています。楽しい冬休みが過ごせるよう、心から祈っております。

皆様よいお年をお迎えください。



1月の予定

- 9日（火） 始業式（11時30分下校）
- 10日（水） 給食開始、身体・視力測定
- 11日（木） 街頭指導、避難訓練
- 12日（金） ALT来校、児童会・委員会
- 15日（月） スクールカウンセラー来校
- 16日（火） 児童集会
- 19日（金） 家庭教育講演会（保護者対象 14:30～）【水曜校時】
- 20日（土） 土曜授業
- 26日（金） ALT来校、クラブ
- 31日（水） 第2回みえスタディチェック（5年生対象）

我が家のポルトガル語事情 その2

前回は娘のポルトガル語事情をお話しましたが、今回は妻のポルトガル語事情について話をしたいと思います。

必要に迫られることが言語上達への秘訣と前回言いましたが、妻もまた必要に迫られることが多々ありました。アパート入居に際してのトラブルに関しては先輩派遣教員の配偶者のサポートなしでは乗り切ることができませんでしたが、それ以降、何かトラブルのようなことがあるとき、最初のうちは先輩のサポートをお願いすることもありましたが、次第にひとりで、あるいはポルトガル語の家庭教師の先生と対応することが多くなってきました。家庭教師の先生は通訳をするのではなく、基本は妻が対応して、変な答えをしたり、わからなくて困ったりした場合にだけ助け舟を出してくれる程度のサポートです。

必要に迫られてと言いましたが、妻の場合、日常生活の中でも必要に迫られています。例えば買い物のとき、日本のスーパーでは、しようと思えば一言もしゃべらずに買い物ができますが、ブラジルのスーパーではそうはいきません。スーパーといえども対面販売のコーナーがあり、肉売り場では原則量り売りです。ほしい肉の種類、部位、量を担当者に伝えなければなりません。

また、歩いては行けない場所へ行きたいときはタクシーを使うのですが（派遣教員の配偶者は運転をしてはいけないことになっていました）、自宅へタクシーに来てもらうために電話連絡をしますし、乗ってからは行き先を告げなければなりません。途中、ドライバーに話しかけられることもあります。更にアパートに不都合が起きると、工事をしてもらわなければなりません。事あるごとに必要に迫られる状況が生まれてきますから、最初の1年こそ若さゆえ、娘の方が理解度は高かったようですが、2年目以降、娘は日本人学校に入学し、それまでほどは必要に迫られなくなったのに対し、妻は引き続き必要に迫られる上、一人で対応する場面も増え、語学力は着実に向上していました。やがて我が家いちばんのポルトガル語使いになったのは言うまでもありません。

かく言う私はどうだったでしょうか。日本人学校の中は日本そのものです。一部、現地で採用された職員がいて、ポルトガル語を話す必要が少しはありましたが、1日のほとんどを子どもたちの前や家で過ごす私にとって、その時以外はほとんど必要ありませんでした。結果、私は必要最小限のことくらいしか話すことができず、ふたりの足元にも及ばないことは言うまでありません。何とも情けない話です。せっかく3年間もブラジルで暮らしていたのですから、「もっとポルトガル語を勉強しておけばよかった。」「もっと話せるようになりたかった。」と思ってもあの祭ですね。

